2026HKFA審判委員会女子グループ 事業報告書③

U１８国際交流大会「OSHIMA CUP」女子研修会

■日時　　：２０２６年８月１０日（月）～８月１２日（水）
■場所　　：うみしんフットボールパーク（函館フットボールパーク）
　　東大沼多目的グラウンド　トルナーレ・函館どつくスポーツガーデン
■スタッフ　：大石　かおり・山下　浩司　（審判委員会女子グループ）
　オブザーバー：大岩　真由美　氏（北海道サッカー協会　副会長）
■参加者　　：審判員（大村美詞・土屋花・鈴木陽和）

８月１０日（月）：集合、開講式
　　審判実技・座学（事象分析）
８月１１日（火）：審判実技・座学（ディスカッション）
８月１２日（水）：審判実技、閉講式

大石インストラクター
函館地区FA審判委員会委員長平石様より女子U18年代の国内外１２チームが参加したOSHIMA CUPを紹介していただき、実技研修の場とさせていただきました。
フェスティバルのため、副審は各チームが担当し、割当は主審のみでした。レベルの高い試合でしたが、ファウルが少なく、チームの特徴を考えながらポジショニングに重点を置きました。夜の講義では、２名ではありましたが、積極的に考えを述べ話し合う様子に、成長と頼もしさを感じました。実地研修はあまり多くできない状況にありますが、集まって行う研修の必要性を改めて感じました。
　素晴らしい環境の中で実り多い研修が実施できました。平石委員長始め、函館地区FAの皆様にはたくさんのご配慮をいただき、感謝しております。ありがとうございました。

山下インストラクター
８月１０日～１２日、函館地区サッカー協会・地区審判委員会の協力をいただき、函館で女子研修会が行われました。今回はU１８国際交流大会「OSHIMA CUP」を利用したもので、審判員３名、インストラクター２名、オブザーバー１名が参加しました。
日中は試合をとおした実技とその振り返りを行い、宿舎に戻った後に座学（１日目：事象分析、２日目：ディスカッション）を行いました。その中では審判員が自分自身の考えを述べることがとても重要で、非常に活発な議論になっていました。そしてそれによって競技規則やポジショニングなどの理解や動き方、また、考えを一段と深めることができたと思います。
研修期間中、レフェリーたちは各々テーマを設けて試合に臨みました。そして試合のフィードバックや研修会での内容をふまえ、次の試合でさらにチャレンジし、試合を重ねるごとにたくましいレフェリングになっていきました。このようにステップアップができたことがこの研修の大きな収穫でありましたし、今後の審判活動に活かされると期待しています。そしてこれは、このような環境の中だからこそじっくり取り組むことができたと感じており、この大会に関わった皆さんに感謝を申し上げます。

土屋さん
今回、3日間にわたりOSHIMA CUPに参加させていただきました。北海道という広大な土地の中でも、函館という自然豊かな場所で審判を務めることができたことは、私自身の審判活動において大変貴重な経験となりました。普段とは異なる環境や、これまでとは違った選手たちと試合をする中で、どのようにコミュニケーションを取りながら、選手とともにより良い試合をつくり上げていくかということを意識し、一試合一試合に臨みました。
このような貴重な機会をいただくことができたのは、北海道サッカー協会の皆様が研修の一環として大会への参加に尽力してくださったからこそだと感じています。実際の試合を担当するだけではなく、試合終了後には毎試合、インストラクターの方々から振り返りの時間を設けていただき、自分自身の判定やポジショニング、試合への関わり方などについて、ご指導をいただきました。
自分では気づくことのできなかった課題や、良かった点について客観的な視点から振り返ることができ、一つひとつの試合を次の試合につなげていくことの大切さを改めて実感しました。また、同じ事象であっても、審判員がどのような情報を持ち、どのように判断するかによって、その捉え方や対応が変わることについても多くの学びがありました。
さらに、研修の中での講義では、実際の試合で起こったさまざまな事象をもとに事象分析を行い、テーマごとに参加者同士でディスカッションを行いました。他の審判員がどのような視点で事象を捉え、どのような根拠をもって判断しているのかを知ることができ、自分一人では得ることのできない新たな視点を身につける機会となりました。自分の考えを言葉にして伝えるだけでなく、他者の意見を聞き、自分の考えと比較することで、審判として物事を多角的に見ることの重要性を学ぶことができました。
3日間を通して、実際の試合、試合後の振り返り、そして講義やディスカッションという学びのサイクルを繰り返すことで、自分自身の課題と向き合いながら、審判として多くのことを吸収することができました。今回の研修で得た経験や学びを一過性のものにするのではなく、今後の審判活動の中で一つひとつ実践し、より良い試合をつくることのできる審判員を目指していきたいと思います。
最後になりますが、このような貴重な機会を与えてくださった北海道サッカー協会の皆様をはじめ、OSHIMA CUPの運営に携わられたすべての皆様、参加していただいたチーム関係者の皆様、そしてご指導いただいたインストラクターの皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

鈴木さん
今回の研修では、主審を4本担当させていただきました。女子審判員として、女子のハイレベルな試合を担当できたことをとても嬉しく思います。また大会を通して、自分の課題を見つけることができ、さらに成長することのできる良い機会となりました。試合後の研修会では、ディスカッションを行い、意見交換を通して、自分の考えの引き出しをさらに増やすことができました。今大会で学んだことを、これから活用していき、よりよいレフェリングができるよう精進していきます。
このような機会を作ってくださったインストラクターの方々、サポートしてくださった函館の審判員の方々、本当にありがとうございました。